

I 日 時 令和5年10月27日（金） 10時00分～11時35分

II 場 所 市役所幹部会議室

III 出席者 出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

市長

昨年の連絡会議では、千葉開府900年の取り組みに関することについて皆さんと意見交換をさせていただきました。今年の連絡会議では市域の脱炭素化の取組についてご議論いただきますが、これは2050年の脱炭素社会に向けて、大学、行政など立場を問わず、地域一体となって取り組んでいくべき課題だと思っております。

千葉市は昨年、環境省が実施しております「脱炭素先行地域」として、県内で初めて指定を受けることができました。脱炭素化に向けた取り組みについては、直接的には気候変動に対応することと、豊かな自然と共生する地域を作り、持続可能な街を実現していくことを目指すということになりますが、脱炭素における取り組み自体が千葉市全体の行政だけではなくて、地域全体の強みをさらに強化する側面があると思っております。都市の魅力そのものを上げていくということ、また防災力の強化にも繋がる側面がございますので、配慮して取り組むものではなくて、真正面から取り組み、地域としてのメリットをしっかりと具体化していく、そのような取り組みにしていかなければならないと思っております。

また先行地域の実施に当たりましては、官民連携のコンソーシアムを作らせていただき、推進本部を設置しております。今後、計画事業を確実に推進していくには、脱炭素先行地域の枠組みだけではなく、脱炭素社会の実現に向けた取り組み全体を、市内大学の皆様のお力添えとともに、進めていくことについてご理解を賜ればと思います。

今年の議題は「市域の脱炭素化への取組促進について」としてありますが、こうした市の現状を踏まえて議題設定させていただいております。今日の会議では皆様にぜひ忌憚のないご意見をいただき、大学における取り組みについてご教授をいただきたいと思いますと思っております。

3 出席者紹介

4 議題1 令和4年度の大学連絡会議の振り返りについて

(1) 総合政策部長（資料「令和4年度の大学連絡会議「千葉開府900年に向けて」の振り返りについて」に基づき説明）

(2) 意見交換

淑徳大学

本学が幹事校として参加しております「ちば産学官連携プラットフォーム」の教育活動連携事業部会において、今年の4月から5月に、千葉開府900年に関するアンケート調査を実施しました。設問につきましては千葉市の都市アイデンティティ推進課と連携して、事業の認知度、方向性、興味のある分野、参加意欲等の内容

を盛り込みました。ちば産学官連携プラットフォーム参画校の全学生を対象とし、計2,546名の学生から回答が得られております。それから、自由意見としましては、「あなたは千葉開府900年記念事業としてどのような方向性がふさわしいと思いますか」という設問に対して、千葉の歴史を振り返るドキュメンタリー番組の制作、未来の担い手のことを考えた子育て世代への支援、高校生や県民が文化を発表する場とするといったアイデアが寄せられております。詳細につきましては、9月に都市アイデンティティ推進課と、教育活動連携事業部会参画校を交えて、集計・分析結果を共有して、今後に向けた打ち合わせを行っております。今後、千葉開府900年事業の成功に向けて、本学並びにちば産学官連携プラットフォームの両方の視点から、ご協力をさせていただきますと幸いです。

敬愛大学・千葉敬愛
短期大学

本学の経済学部と教育学部のゼミ学生と、短期大学の学生自治会のメンバーの学生たちが、都市アイデンティティ推進課との意見交換会に参加しました。大変活発で有意義な学びの機会を体験させていただきました。この事業におきましては、本学敬愛大学生涯学習センターの講座で、この話題を使う講座を集中的に開設することも考えております。この場合、市の職員の皆様に、市民向けの出前講座のようなものをお願いすることも考えております。

なお、この千葉開府900年を迎える2026年度、これは本学の経営母体になります千葉敬愛学園としましても、学園創立100周年というそうした節目の年でもありますので、双方を絡めた事業を行うことが、できないものかということも考えております。

千葉経済大学・千葉
経済大学短期大学部

本学園では地域の方々に開放講座を毎年やっており、10回ぐらい様々な分野の教授陣が講演をして質問を受けております。今年10月に大日寺の住職による「千葉氏と大日寺」をテーマにして90分の講義を実施しました。

前年度もお話しましたが、千葉神社・千葉寺については目が行くわけですが、大日寺に目を向けてですね。開府900年をしみじみと味わうということを千葉市として組み込んでいただきたいと思います。

放送大学

本学もたまたま今年に40周年ということで、40年史を作るとか、記念のシンポジウムとか、そういう企画をしております。その中で、40周年記念寄付金というものも立ち上げて、寄付金集めをしようかと思っております。

その背景には、放送大学というのは比較的全国区を意識して、あまり本部が千葉にあるということ意識しないでいた。千葉市の大学連絡会議で、千葉愛のような、千葉市愛のようなものを伺うと、やはりここに立地していることはそれなりに意味があるということを最近しみじみ感じておりました。40周年記念の事業として資料館を立ち上げ、地域の人に放送教育、遠隔教育・遠隔授業というテクノロジー等を知ってもらったり、スタジオ体験してもらったり、そういうことを積極的にやろうと考えております。まだ取りかかったばかりですが、今後は地域ということを意識してやっていきたいと思っております。

先程、令和4年度の大学連絡会議の振り返りについての話を伺っていて、意見交換の「歴史振り返り関連」に、これは明らかに本学の学生が言っている内容がありました。サークルで古文書を読むことや、千葉氏の劇、お遍路、酒井家庄内、佐倉城、プラタモリなど、これらは本学の学生の適齢期の人達が、こういう感想を持つ

千葉大学

のだろうと思いました。このような感じで教育内容やコンテンツをもっとその地域に目を向けたものを進めていきたいと思いました。

本学の実施状況ですが、ボランティアサークル「ふれあいの環」が「人文学地域フィールドワーク」で地元の歴史等を含めて勉強会をさせていただいており、この課題がいわゆる千葉に対する認識を高める良いきっかけになっていると思います。

そういうことも含めて、本学としては、ESGやSDGsを強く意識して貢献したいと考えており、例えばソーラーシェアリングでは農業と連携、もしくは大学や地域と連携できればと考えております。また、千葉市脱炭素先行地域推進コンソーシアムに本学が賛助会員として参加を認めていただき、しっかりやっていきたいと思っています。またふるさと納税におきましても、去年から始まり、これから本格的にやらせていただき、千葉市に貢献できればということも考えております。

神田外語大学

学生たちにアイデンティティを考えることを促し、日本人とは何なのか、日本語とは何なのかを教育しています。外国に繋がる子供たち、お父さん、お母さんが、実質移民で、日本に働きに来ている人たち等ノンジャパニーズの若者たちに人種・民族とは別のアイデンティティを考えてもらうような施策をすることで、千葉の特徴が出てくるのではないだろうかと考えております。開府900年というこの節目、これはキャッチーなものだと思っております。そこで、日本の独特なもの、千葉独特なものを外国に縁のある人たちの目で見てもらい、それを対外的に発信し、結果として外国人の観光客を取り込む。成田空港という国際空港を持つ千葉は、実際に自然環境にも恵まれ、遺跡もあるけれども、なぜか、あまり有名ではない。これを徹底的にお金にするいいチャンスかなと思っております。さらに子供たちに千葉を感じてもらうツールとして、先ほどの画像も面白いですが、遊びの心が必要かなど。ポケモンGOのようなゲーム感覚を持って、子供たちが夢中になって、千葉を考えるとといった施策を、学生たちと一緒に仕組みを言えたらいいかなと思っております。

市長

様々なご意見をいただきありがとうございました。ただ今ご示唆をいただきました地域経済について申しますと、市内の外国人登録者数は市全体の3~4%ということになっておりますので、外国人の方とどう向き合っていくかは、多文化共生社会をどう作っていくということが論点になるかと思えます。

また、千葉市のアイデンティティをどう訴求していくのかについては、古くて新しいテーマだと思っています。以前私が経済部長として千葉市に来たときに観光部門の職員に、千葉市の観光地でどこにまず行ったらいいか尋ねたところ、特にありませんと答えられてしまいました。これはまずいなと思った記憶がございます。色々そろっているから、これといったものはなかなか言えないということは豊かさの裏返しだと思いますけれども、強いブランドを作っていくことは極めて重要であり、開府900年は、千葉市の良さを見つめ直していただく機会として絶好のタイミングだと思えます。この機を逃さずしっかりと学生や市民にアピールできる企画にしていきたいと思えますので、ぜひご支援・ご協力をいただければと思います。

議題2 市域の脱炭素化への取組み促進について

- (1) 市長発表 (資料「市域の脱炭素化への取組み促進について」に基づき説明)
- (2) 意見交換

本学の取組としては、本学内のLED化は今年度すでに終えており、屋上にはソーラーパネルの設置しております。これから新しい建物を建てる際には必ずソーラーパネルを付ける方向性で進めています。それから学園のキャンパス内の2万平米の学校林に植草共生の森と名付けておりますが、ここで学生に対する環境教育をやっております。今回、この10月に、植草共生の森が2つ賞をいただきました。1つは環境省主催の自然共生サイトというところで評価をいただきました。植草共生の森は国立公園等で定めている生物多様性地区以外で、民間の取組で保全を図られている地域(OECM)の一つとして、国際データベースに登録されました。

それからもう1点、都市緑化機構が主催している第43回緑の都市賞の、緑の市民協働部門において「第一生命財団賞」を受賞しました。本学の卒業生は教員になるものが多く、自然の大切さを次の世代に伝える人材養成においても、この森が良い教材になっているという評価を受けて、この受賞につながっております。

電気料金が高騰した事情はありますが、電力に関しましては、ソーラーパネル以外の取組として、学生が残って勉強するときに、これまではどの部屋でもいいということにしておりましたが、なるべく集中化して、使わない部屋の電気は消すことで、電力の省エネに努めています。

地域との連携ですが、千葉市と連携してシェアサイクルをキャンパス内に設置して、学生が使わせていただいております。

それから10月15日開催のエコメッセ2023は、本学学生が参加し、竹太鼓など植草共生の森の自然の材料を使った工作体験を提供しました。また、この森を活用した各種イベントをずっとやっており、若葉区の市民の方や近くの小学校にも参加していただいております。

さらに高校生プレゼンテーションコンテストを実施しております。「理想の共生社会をめざして」をテーマにしており、参加した高校生からはSDGs、環境問題を意識した発表や提案も多くなされています。今年は11月11日に実施しますが、審査委員長は例年若葉区長にやっていただいております。市・区の連携の中でこのような活動をしておりますので、引き続きご支援いただければと思います。

私どもが大学で意識しておりますのは、学習者が主体的に学び続けるようなヒントを与えることだろうと思っております。例えば、環境問題を意識しないと、世の中、相手にされないという時代になっていますが、日本の社会は、まだその意識が少ないと思っております。そこでSDGsの目標というのは非常に具体性があり、学生たちが問題意識を持ちやすいということで頻りにそれを活用しております。ただ、なかなかブームになりません。そこで環境行政の中に学生を取り組んでいくインターンシップのようなことをやっていくというのがいいのではないかと考えております。

それと今日の市長の挨拶に文句を言いたいわけではないのですが、脱炭素という表現は、私は非常に違和感を覚えております。二酸化炭素と炭素は異なる物質であるということは、初等教育であれだけ教えているにもかかわらず、社会人や高等教育になると脱炭素という言い方になる。カーボンニュートラルというコンセプトはメッセージ性もあると思いますが、脱炭素との表現を全国に先駆けてやめたほうがいいのではないかと考えております。それよりも、この縄文時代に戻ったこの自然と

の融和、無駄な二酸化炭素を出さないというような、こういうメッセージを出せればいいかなと思っております。

敬愛大学・千葉敬愛
短期大学

本学は本格的な取組ができているかという、そこまで至ってないというのが現状でございます。本学の取り組みの具体的な事例として、ペーパーレス化推進等は報告させていただきました。脱炭素化を意識した取り組みは非常に重要なテーマでございますので、注力していく必要があるということをお話し、改めて勉強させていただいた次第でございます。

本学では、来年3月に短大が佐倉キャンパスから稲毛に移転をいたしますので、大学と短大のキャンパスが一緒になるということをお話し、一つの契機としまして、大学・短大が共同して、この取り組みを具体的に進めていかなければなりません。行政との連携を考えながら取り組むということがSDGsへの取り組みの一つになりますし、本学の建学の精神を具現化するという点にも繋げて参りたいと思っております。

淑徳大学

令和4年度から「淑徳大学SDGs アクションプラン」の取り組みを始めており、学生・教職員の理解を促し、意識化を図るという意味でも、こういう取り組みも必要だと考えています。消費電力の削減や、会議資料のデジタル化を進めており、教科書は来年度から電子化を一部導入すること、配布資料もPOWER POINTデータなどにするというようななるべく紙を減らす取組を来年度から開始していこうと考えております。

本学は蘇我駅からのスクールバスがございますので、バスの燃料費の問題もあります。排ガス低減をしたバスであったり、学生には歩くことを推奨したりしますが、なかなかそこは難しいところでございます。使用している電化製品については、少し燃費のいいものにし、学用車はEV車へ移行しているところでございます。

また、ちば産学官連携プラットフォームにおいて、フードロス削減の取り組みをしております。「フードバンクちば」と連携して、廃棄せざるをえない数百人分の食品を、連携大学が引き取って学生へ配布するという活動に取り組ませていただいております。また、千葉市防災対策課と連携して、災害用備蓄品の更新分を、連携大学に配布をして活用することにも取り組んでおります。

「知る」というところから、環境への取り組みの重要性をしっかり学ぶというところにもう少し力を入れる必要があります。そのあたりで市と連携ができてくるとよいと考えております。先ほど市長からのお話にもありましたので、講師等でお越しいただくというようなことも含めて検討して参りたいと思っております。

千葉大学

脱炭素に資する取組について申し上げますと、ISO14001、ISO50001の1を取得し、国際規格に則った環境・エネルギーマネジメントシステムを導入しております。それを具体的表現するために、年1回サステナビリティレポートを学生中心に編集・発行をしております。加えて、カーボンニュートラルに関する取組といたしましては、サステナビリティレポートにおいて、2040年までに、RE100いわゆる使用エネルギー100%再生可能エネルギーにすることをうたっております。そのためのRE100企画推進委員会を発足させて、積極的に実現に向けて実施をしております。

脱炭素に向けた連携では、ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と、本学の卒業生が千葉エコエネルギー株式会社を行っております。

全国的にみてもソーラーパネルの下に農地があるところがありますが、千葉エコエネルギー株式会社ではその環境下で色々な実験をしています。また、洋上風力発電大学教育カリキュラム等整備事業として、積極的にいわゆるブルーな電力や体制を検討できる機会を考えております。

学内にエネルギーマネジメントシステムの運用を担う学生団体があり、学外に活動を広げて、千葉市並びに周辺地域や企業と連携して、環境啓発活動を行っております。代表的なものとしたしましては、京葉銀行とのエコプロジェクトというものがございます。こういうことを通じて、毎年、発表会をやらせていただいておりますが、広がりがありまして、学生の応募がすごく増えており、ちょっと抑えるのが大変という状況になってきております。

またSDGsは国内でもきちんと学べるわけですが、本学では全員留学を目指しております。その中の一つにSDGsを学ぶ短期留学がございまして、違う目線で違う国のSDGsを学ぶという意味では大変参考になるため、この成果も学内で共有したいと思っています。

加えて意識醸成につなげるという意味では、自治体に対するということで申し上げますと、政策立案のプロセスに学生の意見を積極的に反映させる仕組みや機会をいただければと思います。

千葉経済大学・千葉
経済大学短期大学部

CO2排出については、全私学連合が私学大学から私立幼稚園までに対して、例えば電灯から空調の設定管理、カラーコピー印刷用紙の削減など全部で45項目を調査して、これをやっていきましょうということになっています。本学についてはそこに書いてあるとおりですのでお読みいただきたい。

個人的なことですが、この夏は花火大会が解禁になり、千葉市や他の所でも行われました。テレビが花火大会の中継をしまして見ていましたが、隅田川の花火を楽しもうと思っても、ネオンサインがいっぱいで花火は楽しめませんでした。それでそのあと長岡の花火大会があり、そこは真っ暗な中で花火がぱっと出て、本当に花火の良さを私は感じました。また、10年以上前に人工衛星から夜の地球を見ると、日本だけが明々と照っているということを知りまして、それだけ日本というのは夜中にネオンサイン等意味の無いものを使っている。私とすれば、千葉市が毎月10日は、街灯はつけていいがネオンサインはつけない取組をする方が、かなり市民の意識も変わるのではないかと。

昨日、朝7時頃に家を出たら、千葉市からの案内が来ていた。まさか光化学スモッグ注意報ではないかと思っていたら、「イノシンが出ています。見かけても近寄って手を出さないでください」というのが来ていました。びっくりしました。イノシンが埋葬されたということですが、イノシンは明るいところを目指して千葉市の中央区まで夜中にやってきたのではないかと。それで朝になって明け方になったから、まさにこの辺を通った。東京湾に行って、泳いで上がってきたところを捕獲されて、埋葬された。イノシンにインタビューすれば、「私は明るいところが好きなんです。だから、来てみたんです」というようなことを言うのではないかと思います。

この提案は、まず、行政とすれば全然予算かからない。この日は夜10時になったらネオンサインを消しますというような形で星空を見て楽しむというようなこと

を毎月この日というようにすればいいと思います。

本学は他大学と同じように様々な省エネ活動をしております。LED化やソーラーパネルを設置しております。おそらく多くの大学はソーラーパネルを持っていると思います。ここで一番重要なのは恒常的に使うための蓄電池です。パネルを設置してもどうやって貯めておくか。大学にとっても大きな課題です。これの補助を少しいただくと助かります。ソーラーパネルは意外に安いです。むしろ蓄電池システムの方が高価です。日が暮れてしまったら電気が使えない。これでは役に立たない。学校で恒常的に使うためには、ワンセットが必要となります。それで、パネルの継続だけでなく安定したシステムのご尽力を行政にお願いできないかと思っております。

それから、本学は若葉区にあります。ちょうど四街道が境目にありますが、モノレールを使います。まず、モノレールの脱炭素。まさにこれは象徴だと思います。千葉市はもっとモノレールを売りにしてもいいと思います。まさに炭素を使わない。そういうシステムを千葉市は持っております。今でもそうでしょうか、懸垂型ですと日本一の長さを持っています。そういうものが千葉市のPRになると思っています。

県と千葉市から、採算の面については非常に厳しいと聞いております。税金の無駄遣いはよくありませんが、採算が取れないから税金を使うってことはあってもいいと思います。このモノレールはここにいる皆様もモノレールを使っている方もいらっしゃると思います。そういう中で、企業負担を含めて検討していただけないか。まさに千葉市の大きな魅力だろうと思います。

本学の取組ですが、日立造船と連携して、ごみの焼却を効率的に行う研究を行っています。企業との研究ですので、登記の関係上なかなか表に出せないことが多いのですが、こういうことも含めて、千葉市のごみ処理の問題を協力できないかと思っております。この問題は奥深く、すぐに解決できない問題かもしれません。ただ市長のおっしゃるとおり、どこかで動かなくてはならないと思います。

1番目として、事業展開の中で省エネ化を進めておまして、2013年比で、2022年には30%以上の減を達成し、優良な事業者としてSクラスの評価をいただいております。例えばこのペーパーレス化はどの大学もやられていると思いますが、この資料は裏を見ると白紙になっておまして、A4を片面で使うっていうのは、本学では「チョコチャンに叱られる」というレベルでありまして、こういったところも私たちは工夫して、何とか少しずつ減らしております。

2番目として、試験をIBTというコンピューターによる自宅受験に変えました。これによって人の移動、大体20万科目人の試験をやりますので、人が移動しなくなる。それからこの厚い紙の試験を郵送しなくなる。それから会場を手配しなくてよくなる。いろんな利点がありまして、これは非常に省エネに貢献していると思います。

3番目として、本学の特性であります通信制の授業をやっておりますが、ここ数年、SDGsをテーマにした或いは環境をテーマにした科目を作っております、各講師で、人文系、社会系、自然系なりのテーマを常時10分ぐらいの授業を提供しております。学生がちょうど、そういうことに関心の高い社会人ということもあ

り、視聴率は高いです。そういう内容的な効果は上がっているのではないかと思います。

今後この3つの点を事業所として省エネを目指す。それから教育内容として省エネを目指す。それからコンテンツの中で、こういった意識し、SDGsの関心を高めるような内容を周知していく。この三本柱を進めていきたいと考えております。

帝京平成大学

教育面として、今年度から一年生に対しまして、帝京平成大学SDGs実学プログラムをスタートしております。必修科目ではなく選択科目ですが、一年生2,400名程度のうち900名程度の学生が履修しまして、やはり若い人たちに非常に関心があるカリキュラムだということがよくわかりました。こういったことを通じて、学生の行動変容、そして、本学学内の教員の意識の向上を図って参りたいと考えております。

本学は千葉市にはなくて、千葉市に隣接します市原市にキャンパスがございます。市原市のちはら台に新校舎を2027年に建設する予定でございまして、そちらの新校舎に関しましては、省エネルギー適合基準よりも40%以上一次エネルギー消費量を削減する「ZEB ORIENTED」の実現を目指しております。3万平方メートル程度の建物となりますが、3万平方メートルでこの法律点検等をとれているのは、大学では全国初と言われておりますので、これを目指しているというところでございます。

企業との連携につきましては皆さんもやってらっしゃると思いますが、千葉市内のスズキ自販千葉株式会社との長期のインターンシップを通じまして、販売やハイブリット、環境負荷等について、学ばせていただくというところでございます。

自治体に期待するもの或いはご提案は、本学があります市原市では、人生ゲームのような「いはら版 GET THE POINT」というSDGsのゲームボードを作っております、それを学生たちに紹介しております。SDGsで何か良いことをしたらポイントももらって、本当に人生ゲームみたいな感じでポイントをとめていくというゲームでございます。

市原市内そして千葉県内にあります大学としまして、千葉県内初の脱炭素先行地域であります千葉市の取り組みに、これからも参加しながら、ご参考にさせていただきながら、千葉市とともに発信しながら、学生や教職員の行動変容を促進していく所存でございます。

千葉工業大学

産学官連携に関しましては産業振興財団を通じて、環境系ベンチャー企業に対して技術協力やアドバイスというのはもう常に行わせていただいております。この部分ではご協力できているのではないかと考えております。包括協定の中で、昨年度から、千葉市のモビリティマネジメントの促進に関する事で、社会調査や新たな公共交通ブランディングに関しましてはご相談を受けております。まだ実際にこの次の中期計画向けということで、具体化されてないのですが、意見交換のところをやらせていただいておりますので、効果が出ればこちらは動ける状態で準備を進めております。

あとSDGsに関しましてはソーシャルアクティブラーニングという授業を作りまして、昨年度行っていましたが、既存のNPO法人と本学で直接コンタクトを取り、大学生がSDGsを学び、それを高校生に伝えていくことをしています。学び

というのは学ぶだけではなくて、自分が誰かに伝えることで、すごく学びが深くなります。そういうことを色々な高校の探求授業の中で本学の学生が、授業としてやらせていただいております。その一環で昨年12月にイオンモールで発表があり、その時は神谷市長がご出席いただいたと伺っています。

令和6年度に関しましては、海浜地区にあります稲毛高校と連携をして、あの辺りの共生に関して考えていこうと進めております。その際に神田外語大学の宮内学長にはまだお願いしていませんが、地理的に近い神田外語大学様にご協力いただければ、一緒に活動できるのではないかと考えております。

市長

ご意見を頂きましてありがとうございました。

皆様方のお話をお伺いする中で、すでに多くの大学の施設面・ソフト面におかれましても大学の特色を生かして、カーボンニュートラル・脱炭素化の取り組みを進めていただいていることを改めて認識いたしました。また心強く感じたところがございます。やはり市民や他の地域社会の皆さんに、行政と大学がどんな取り組みをしているのか、しっかり見える化をしてわかっていたくことがまず大事ではないかと思っております。我々としてもメッセージをどうするのか、どういう媒体を使っていくのか、わかりやすい形で、インパクトのある伝え方をしっかり考えていかなければいけないと感じたところがございます。モノレールについては、もう少しこの分野の活用をすべきではないかというのは、確かにその通りだと思いますので、しっかりと具体化させていただきたいと思っております。

また大学の教育活動と市の多種多様な現場を、相互に利用しあうことにより、学生に対する環境教育、また市民の皆さんに対する、環境に対する学びの深さも出てくるかと思っておりますので、この点についてお願いをいたします。それからやはり取組についてお金がかかることもございますので、市の予算でできる範囲はありますが、引き続き取り組ませていただくとともに、国等の競争的資金の獲得についても、市としてお手伝いできるところもあるかと思っておりますので、こういった点についても、別の全般的な取り組みをあわせてご相談させていただきながら、取り組むことができればと思いました。様々なご意見ありがとうございました。さらに連携強化させていただいてですね、地域全体で取り組み進めていただいて、それでいければと思っておりますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。